

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区城西地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:5人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	医療法人社団 盈進会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回		4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)	3回	(第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	3回		4回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)			
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1	地域でケアマネジャーが活躍できる仕組みづくり。	今年度は2回介護支援専門員事業所連絡会を開催予定。企画担当を募り、割り振りができた。特定事業所の主マネが中心となり、事前打ち合わせを重ねている。企画担当者自ら意見を出すなど、主体的な関与あり。1回目の連絡会は10/10に地域資源を持ち寄りマッピング予定。数年ぶりに対面での開催で、参加者も多い。今後、主体的な取組として根付いていくために、連絡会の中で活動を振り返りながら方法を模索していく。	・地域資源のマッピングについては他の包括でも取り組んでいる。利用者によっては包括の圏域をまたいで介護保険サービス等を利用していることも多い。そのため、地域資源マップについて他の包括とも共有出来たらよい。 ・介護支援専門員事業所連絡会では、役割のすべてを包括が担うのではなく、ケアマネの主体性を促しながら運用することは非常に良い取り組みだと思う。	1回目の連絡会を10/10に実施。2回目の連絡会を2/12に開催。「グルーミーティング～ケアマネあるある～」と題し、ケアマネジャーの各々の悩みや、問題等を共有し課題解決に向け意見交換を実施。連絡会の実施に当たっては、ケアマネジャーの意向を反映しながら会の内容を決定。ケアマネジャー主体で企画運営がなされ、企画に対して前向きな発言が聞かれている。年度末に開催予定の反省会で活動を振り返りながら、次年度以降の運営方法について検討していく。	・特定居宅の主任ケアマネジャーが中心となり、主体的な研修企画、運営となった。 ・アマネジャーが主体となり、連絡会を継続的に運営し、地域に根付いた取り組みにしていきたい。
2	認知症になっても生活しやすい環境整備の推進。	・チームオレンジ駒形では3回検討会開催。「誰もが暮らしやすい・駒形」を目指し、地域住民が主体的に関り、具体的な取組を検討中。継続的に我が町ごととして、地域で主体的な取組となるよう、事業を運営していく。 ・認知症カフェ連絡会は本年度からカフェ主体となっているものの、開催には至らず。開催に向け、継続的に声掛けを行っていく。 ・認知症サポーター養成講座については、自治会等で声掛けを行っている。チームオレンジ駒形とも連動し安倍川中学校で認知症サポーター養成の講座開催ができた。今後も広い世代に認知症の理解ができるよう、アプローチを行っていく。	・認知症カフェ連絡会は、認知症患者の居場所の確保や介護する家族の負担軽減にも繋がると思う。当事者や関係者等の情報共有の場にもなるため、今後も開催を目指して調整を継続していただきたい。	・チームオレンジ駒形は11月に核メンバー会議で取り組みの基本方針を決定。次回2月下旬開催予定のチーム員会議で、具体的な取組を検討していく。 ・カフェ連絡会は、継続的な声掛けにより2/13に開催。現在のカフェ取り組み状況の共有、今後の開催方法の検討を実施。 ・認知症サポーター養成講座は安倍川中学校以外開催できていないが、居場所での認知症のミニ講座、福祉大会で認知症の理解を広める活動を行った。	・チームオレンジ駒形では、チーム員からの積極的な意見により取り組みの基本方針決定した。 ・チームオレンジ駒形では、検討した取り組み内容について活動に移していく。認知症理解を広める取り組みは継続してアプローチを行っていく。 ・認知症の理解を広める取り組みでは、幅広い世帯に分かりやすく理解を得られるよう、新たなツールとして絵本や紙芝居を活用した。 ・認知症のミニ講座をオリジナルで実施。
3					

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市 葵区（安西番町）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：5人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会 開催時点)	2回	(第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		3回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 関係機関との連携強化を図る。	<p><進捗状況></p> <p>①圏域のケアマネジャーとの連携 年度初めに各事業所を訪問し課題抽出した結果と、圏域内の事例検討会での課題を受け、身元保証に関する勉強会を実施。今後は番町民児協とケアマネジャーの意見交換会を行う予定。</p> <p>②末広中学との連携 8月に職場体験を受け入れ、12月には福祉授業を行う予定。</p> <p>③地域のサービス事業所との連携 Sデイで講座を実施する際、地域のデイサービス事業所に声をかけ、協働した。</p> <p>④重層的支援体制整備事業との協働 包括より事例提供し、現在、アウトリーチ事業を活用した支援を展開している。</p> <p>⑤その他 生活支援コーディネーターと協力し、一番町地区での会議を計画中。</p> <p><課題> 今後はケアマネジャーと障害関係機関、地域住民とのネットワークができるよう働きかけていく。</p>	<p>①身元保証に関する問題は医療機関でも課題になっている。身内のいない方や家族関係が希薄な方が増えている印象を受ける。</p> <p>③地域には多くの介護保険事業所があると思うが、単体でサービス提供を行うより、包括に関わってもらうことで事業所同士の連携が促され、サービスの質の向上にも繋がると思うため、事業所にも積極的に加わってもらうよう働きかけていただきたい。</p>	<p>①圏域のケアマネジャーとの連携 ・年度初めに各事業所を訪問し課題抽出した結果と、圏域内の事例検討会での課題を受け、身元保証に関する勉強会を実施。 ・番町民児協とケアマネジャーの意見交換会を実施。 ・圏域の介護支援専門員連絡会の企画運営の後方支援の実施(1/22)</p> <p>②末広中学との連携 ・8月、職場体験受け入れ、12月には福祉授業を実施</p> <p>③地域のサービス事業所との連携 ・Sデイで講座を実施する際、地域のデイサービス事業所に声をかけ、協働した。</p> <p>④重層的支援体制整備事業との協働 包括より事例提供し、現在、アウトリーチ事業を活用した支援を展開している。</p> <p>⑤その他 ・生活支援コーディネーターと協力し、一番町地区での会議を計画中。(2/8) ・一番町クリスマスウェルネスフェアに参加。健康チェックを通して、地域の若い世代との繋がりを図った。</p>	<p>【良かった点】 ・介護保険の事業所に限らず、全世代との繋がりを想定しての働きかけを行うことが出来た。</p> <p>【課題】 ・地域のネットワークづくりの面で医療との繋がりが少なかった。</p> <p>【次年度展望】 ・1～2年目は自治体含めた地域団体との連携に重きを置いた。3年目は医療との連携を深めていきたい。(口腔の勉強会も企画したい。)</p>
2 認知症への理解を深めるための啓発を地域に向けて行う。	<p><進捗状況></p> <p>①一番町地区小中学生を対象に、年をとること(認知症も含めて)についての勉強会を企画、夏休みのラジオ体操で高齢者と関わる機会を作った後、振り返りの機会を設けた。</p> <p>②末広中学生徒の職場体験の機会を活用して、中学生に認知症について啓発を行った。</p> <p>③番町地区の民生委員を対象に認知症の勉強会を実施した。</p> <p><課題> 今年度、小中学生とその親の世代への啓発に取り組み始めたが、まだ少数であるため、今後も引き続き若い世代への啓発を続けたい。</p>	<p>①②小中学生を対象とした認知症の勉強会を通して、その保護者への普及啓発にも繋がっている。認知症患者の身近な人が認知症の理解があり、よりよい接し方に対応することで、認知症患者の病状にもよい影響がある。</p>	<p>①一番町地区小中学生を対象に、年をとること(認知症も含めて)についての勉強会を企画、夏休みのラジオ体操で高齢者と関わる機会を作った後、振り返りの機会を設けた。</p> <p>②末広中学生徒の職場体験の機会を活用して、中学生に認知症について啓発を行った。</p> <p>③12月末広中の福祉授業内で、高齢者体験を通し認知症を含めた理解周知に努めた。</p> <p>④番町地区の民生委員を対象に認知症の勉強会を実施した。</p>	<p>【良かった点】 ・小中学生とその親世代に認知症について啓発した。</p> <p>【課題】 ・今後も継続して認知症について啓発していくこと。</p> <p>【次年度展望】 ・地域の小中学生とその親世代に認知症の啓発を継続する。 ・地域企業に対しアプローチしたい。 ・中学生に対しもう一步深めた学びを提供したい。</p>
3				

令和6年度 葵 区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区城東地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:5.3人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	静岡市社会福祉協議会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		4回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)	1回	(第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		5回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
<p>①高齢者の不適切な状況の早期発見、予防のための取り組み</p> <p>安東地区S型デイサービス5か所と城内地区サロン7か所へのアウトリーチ活動を行う。</p>	<p>前期(社福)、後期(保健師)に分け全会場を年2回訪問している。包括の広報誌を配り、啓蒙活動を行い前期は1サロン以外訪問を終えている。高齢に伴い利用が難しくなった利用者が包括に相談に上がり認知症の早期発見、重度化予防に繋がっている。</p>	<p>・S型デイサービス等、地域の集まり等に行けない、外出が困難な高齢者へのアプローチが課題になると思う。そういった視点でみると重点項目③の進捗状況・課題の民生委員とケアマネの顔合わせの会は、重点項目①の目的と重なる。</p>	<p>・安東地区S型デイサービス5か所、城内地区サロン8か所へのアウトリーチ活動を年2回実施。サロンでは元気高齢者にまじり、包括への相談方法が難しくなった要支援要介護状態の方も参加されていることから、職員が訪問することで不適切な状況の早期発見、重度化予防の役割を果たすことができた。また運営者側から訪問を受けることで参加者が困りごとを表明しやすくと好評を頂いており引き続きの訪問依頼が入っている。</p> <p>・要支援高齢者等の状況把握訪問では、民生委員と訪問名簿に上がった高齢者の自宅に訪問し不適切な状況がないか確認を行った。また、関係機関との連携を強化した結果、CMから相談があったケースは同行訪問し介護保険サービスの利用に繋げる事ができた。</p> <p>・地域支援コーディネーターと、まるけあ手帳を作成し11月に発行、民児協、地区社協、S型、サロン等で150部を配布。高齢者が地域で意欲的に活動するための情報(働きたい、地域に貢献したい、趣味を楽しみたい学びたい、身体を動かしたい、交流したい)が掲載されており、好評であったことから現在100部増刷をしている。</p> <p>・包括支援センターについての情報格差が生じぬよう年2回広報誌を発行。配布は全戸及び圏域109箇所の医療介護関係及び店舗企業に行い、2725部を配布した。チラシをみて相談に繋がったケースが15ケースあった。(2月に『まるけあ城東だより はな梅号』を同数配布予定。)</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S型デイサービス・サロンのアウトリーチ活動を通じ、民生員や地域活動に積極的な住民との連携の強化が図れたことで生活に支障のある高齢者の早期発見・対応に繋がった。また支援にあたり(個人情報の問題のない範囲)民生委員や自治会関係者と共に対応したことから、住民側に包括の役割、介護保険制度やサービス内容についての理解が進み以降の連携が回りやすくなった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を課題として捉えていない住民の支援。本人は困っていないが、まわりが困っているケースが増えている。そういった方は、民生委員や近隣住民との関わり、定期健診も受けられない引きこもりがちな生活をされていることから、対象者本人だけではなく、周囲の方への包括業務の周知が必要となっている。 <p>《次年度展望》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り体制の構築 ・民児協や地区社協活動が盛んな地域であるため今後とも地域との繋がりを深め、地域の強みや特性を生かした支援や見守り体制を築いていく。 ・地域資源手帳の作成 ・住民、サービス機関ともに利用可能な社会資源を地域支援コーディネーターと作成予定。 ・地域行事であるお月見会やクリスマス会への参加の継続及び、企業等が主催するイベントへの参加(ローソンひばり薬局主催のあんどう健康相談会等)

令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
<p>②高齢者の権利擁護の周知活動</p> <p>安東地区S型デイサービス5か所と城内地区サロン7か所、安東・中部民児協での権利擁護及び虐待防止について啓発を行う。</p>	<p>11月に虐待のセミナーを予定していたが講師の関係で2月に変更となる。S型・サロン11会場にて消費者被害のチラシを配布し注意喚起を行った。民児協にて身元保証について知りたいと要望があり、8/1安東、10/11中部で実施。反響があり地域住民に向けても、11/13ほっとカフェ～お気軽相談会～にて開催予定。</p>	<p>・高齢者の権利擁護と高齢者虐待は別々の問題と想っていたが、非常に関連が深いということがわかった。</p>	<p>・安東地区S型デイサービス5か所、城内地区サロン8か所へ社会福祉士による消費者被害や虐待防止に関する啓発活動を行った。金融機関との日々の連携から、消費者被害においては、静岡信用金庫と「特殊詐欺防止セミナー」を共催した。セミナーのなかで実際の犯行音声や、特殊詐欺の最新の手口の紹介がなされたことで運営者及び15名の参加者より「防犯の意識が高まった」「参加して良かった」との声が聞かれた。</p> <p>・中部民児協にて「身元保証について知りたい」と要望がありセミナーを企画。安東・中部民児協にて、静岡市終活支援優良事業者による勉強会を実施。また包括主催のほっとカフェ～お気軽相談会～では、地域住民にも同様のセミナーを開催し利用に繋がったケースもあった。</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を活かしたアウトリーチ活動を行った事で、高齢者の身近な問題について情報提供をすると共に、権利擁護や介護予防について我が事として意識づけが出来た。 ・地域の企業と共催したことで、福祉職とは違った視点で支援や援助が行われ、参加者の満足度の向上と共に、包括職員の学びの機会ともなった。 <p>《課題》</p> <p>高齢者の身元保証する家族や日々の金銭管理を行う担い手がいない。</p> <p>静岡市においても少子化でありながら世帯数は増加しており、独居の高齢者が増えている。そのことが、介護現場においても様々な弊害として支援を難しくしている。</p> <p>《次年度展望》</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で安心して生活出来るよう、様々な分野の民間企業と連携し地域作りを継続していく。そのなかで住民の介護予防や権利擁護意識が高まるような啓発活動も重点的に行い、要介護状態となることの予防や必要時に必要な支援が適切に利用可能となる支援体制作りを進めていく。</p>
<p>③認知症を正しく理解し不安や排除のない地域づくりの推進</p> <p>地域ケア会議を開催し、医療介護の連携を図り関係者間の顔の見える関係作りを行う。</p>	<p>住み慣れた地域で安心して暮らしていける為、地域との繋がりががりが築ける様、6/6民生委員とCMの顔合わせの会を実施。利用者の日頃の様子をCMが民生委員に聞く事ができた。地域住民の認知症理解の為、6/27自宅ですっとミーティング開催。(安東10/24開催予定)また、11/13ほっとカフェ～お気軽相談会～を開催し、①認知症サポーター養成講座②身元保証③訪問看護④理学療法士によるリハビリ教室⑤薬剤師による痛みの講座を行う予定。</p>	<p>・民生委員とケアマネの顔合わせの会は、参加したケアマネから好評だったと意見を聞いている。</p> <p>・地域ケア会議における医療・介護の連携促進について、非常に重要だと考える。特に医師の協力が不可欠になるため、アプローチを継続してもらいたい。</p> <p>・認知症になっても地域で暮らせるよう、住民を巻き込みながら見守り活動を行うことが必要になっている。</p>	<p>地域住民の支援の輪が広がるよう、安東・中部民児協にて民生委員とCMの顔合わせの会を今年度も実施した。</p> <p>・地域住民の認知症理解を高める為、ほっとカフェ～お気軽相談会～にて認知症サポーター養成講座を開催し22名の新たなキャラバンメイトが生まれた。また、行政の協力でかけこまち七間町による認知症チェックを行い認知症の早期発見・対応、予防の意識づけを行う事もできた。</p> <p>・安東、葵地区において静岡市認知症サポート医を招き自宅ですっとミーティングを開催したことにより、住民自身が住み慣れた地域で認知症になっても安心して暮らしていくためには、地域全体で認知症やそれに付随した介護や疾患、権利擁護についての理解を深める(広める)事が重要であると地域課題に気が付いた。その事により地域住民と専門職が地域に出来ることを話し合い、11月に住民参加型のほっとカフェ～お気軽相談会～を開催するに至り、全体で88名の参加者が①認知症サポーター養成講座②身元保証③看護師による訪問看護④理学療法士によるリハビリ教室⑤薬剤師によるお薬講座の講座に参加された。</p> <p>講座終了後31名がアンケートの回答。</p> <p>満足度：とても満足22名、やや満足6名、普通1名、やや不満2名、とても不満0名 ・次回参加の有無：ぜひ参加したい9名、タイミングが合えば11名、内容見て決める4名、わからない7名であった。</p>	<p>《良かった点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員とケアマネの顔合わせの会を継続して行ってきたことで、これまで包括に一報が入ってきた相談事が、居宅事業所に直に入り担当ケアマネより事後連絡をして受けることも増えてきた。そのことにより包括業務である地域作りや、居宅事業所では対応が難しいケース等に時間を充てることも可能となってきている。また顔が見える関係性作りの結果、地域住民の相談先も増え、早期に支援に結びつくと共に、支援開始後も担当者会議に民生委員が参加する等より良い方向性に支援が結びついている。 ・認知症について地域の代表と専門職が話し合えた事により、疾患そのものに対する予防や、疾患をベースとした問題等に取り組んでいく体制作りの構築が進んだ。またその事が認知症サポーター養成講座や、かけこまち七間町による認知症疑似体験にも繋がりが、住民に疾患の理解と予防の意識付け及び不穏原因が疾患によるものであることの理解がすすんだ。 ・S型やサロンでの取り組みは、年度当初にセンター内でテーマを決め、専門職事に役割を明確化し、3職種で協議したものを提供したことで各会場均一な情報提供が行えた。認知機能については看護師及び保健師が担当し実施、好評でありS型を運営する民生委員会長からも、後日電話を頂いた。 <p>《課題》</p> <p>地域に関心があり地域作りに積極的な住民には浸透が早いですが、そうではない関心のない住民にはチラシの全戸配布や行事の企画を行っても繋がらず温度差もある。</p> <p>《次年度展望》</p> <p>今後も地域住民と共に築いてきた繋がりを大切に、啓発活動(S型やサロン・ほっとカフェお気軽相談会等)の継続や多職種連携を行い安心して暮らしていける地域づくりに取り組む。</p>

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（伝馬町横内）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 5 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		4回
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会 開催時点)	4回 (第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		6回

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 圏域ケア会議の開催 現行の圏域ケア会議に加え、民生委員とケアマネ・事業所等を対象に虐待研修を開催する。また圏域の課題に対して、自治会・民生委員・医療関係者・介護の有識者等を集め、一緒に話し合う機会を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、ケアマネ対象の虐待研修を12/10に実施予定。 伝馬町小学区は自治会長・社協・民生委員・介護事業者などを対象に年度内に、横内小学区は地区社協と共催で自治会長、福祉委員、民生委員等と認知症をテーマに地域ケア会議を1/30予定で調整中。 圏域内GHと地域ケア会議にて認知症の理解普及活動について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の4か所のグループホーム同士の関係づくりを目的とした地域ケア会議は、出席者が限定されてしまう傾向があるため、地域にも声を掛け、地域とグループホームが繋がる場になるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、ケアマネ、介護事業所対象の虐待研修を12/10に実施、32名参加。 伝馬町小学区は連町自治会に地域の支え合い活動をテーマに11/27に、横内小学区は地区社協と共催で自治会長、福祉委員、民生委員、ケアマネ等と認知症をテーマに地域ケア会議を1/30開催。 施設連絡会(GH・小規模多機能・自治会長・民生委員・福祉委員)を9月2日に実施、顔の見える関係づくりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待研修は「良かった」とのアンケート結果が85%を占めた。 伝馬町小学区はアンケートの結果、地域の見守り活動や防災等にニーズがあることが分かり、各自治会にアプローチしていく。横内小学区は今回の認知症勉強会が単発で終わらないように次年度の活動を検討する。 施設連絡会では施設と自治会・包括の意見の交換の場を継続して持つ。
2 包括周知活動 地域包括支援センターの広報誌を発行やホームページやSMS上で包括の活動を知らせることに、地域住民へ地域包括を周知する。	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌は4月7月発行済。次回10月、1月の計4回発行を予定。 包括チラシを圏域内の医院・薬局・銀行・郵便局・お店などに配架を依頼した。 郵便局や銀行での出張相談会の開催や、サロン等での終活講座の開催などの協働を検討中。 民生委員不在地区の高齢者世帯に訪問によるアンケート調査を実施中。 S型デイ、認知症カフェに参加、周知活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> S型デイサービスと認知症カフェの違いについて、どちらも居場所づくりの目的がある。認知症カフェは対象をより具体的に、認知症に悩む高齢者やその家族が集まり相談や情報交換が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌は4月7月10月1月発行済。 包括チラシを圏域内の医院・薬局・銀行・郵便局・お店などに配架を依頼した。 民生委員不在地区の高齢者世帯に訪問によるアンケート調査を実施中。包括の周知をした。 各S型デイ年2回、認知症カフェ1回/2か月、子ども食堂1回/月、小学校での福祉教育や認知症サポーター養成講座に参加し、包括の周知活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌発行や住民アンケート実施後サービスに繋がったケースが散見された。 銀行・薬局・郵便局との顔の見える関係づくりが出来、相談が入るようになった。 認知症サポーター養成講座のアンケート結果が概ね良好。次年度も継続して行くなっていく。 出張相談会の開催が出来なかった。次年度の開催を検討する。
3 地域づくり 存続が難しくなった自主グループに対し、生活支援コーディネーターと協力し健康増進や介護予防の活動を支援すると共に、自治会や社協と話し合い今後の方針を検討する。 地域資源つながりマップの活用状況をケアマネにアンケート調査すると共に新たな資源の把握や創設について関係者と協議を続けていく。	<ul style="list-style-type: none"> 春日3丁目自主G、春日1丁目2丁目自主Gのイベントや活動内容に対する支援を実施。地域の参加者が減っている課題に対し、自治会・社協を巻き込み、ボランティアと話し合い、今後の活動支援内容を検討中。 宮前地区にて公民館を利用した自主サロンの立ち上げ支援を9/20に実施。 昨年度作成した地域資源つながりマップの評価やバージョンアップについて関係者にて話し合いを予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員がいない地域で自主活動グループの参加者が減っている課題があるなかで、活動を支える支援者も減っている。そうした社会基盤で高齢者のみに焦点を絞ったサロンの立ち上げは難しいのではないかと。子育て世代や障害者等を含めた活動を社協と検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 春日3丁目自主Gに5月・10月、春日1丁目2丁目自主Gのイベントや活動内容に対する支援を5月・8月に生活支援コーディネーターと協力して実施した。 柚木宮前地区にて公民館を利用した自主サロンの立ち上げを自治会・民生委員・生活支援コーディネーターと共に行った。1月より毎月1回開始。 地域資源つながりマップについて、ケアマネ対象にアンケートで効果と新しい情報を収集の上、実行委員でバージョンアップを3月に実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 春日1・2丁目自主Gの活動内容について、毎月反省会を行うことになった。例えばでんでん体操の自主G化等今後の方針を検討したい。春日3丁目自主Gは自主運営が安定して出ている。年2回の活動支援を継続する。 柚木宮前の自主Gの立ち上げが出来た。自主運営できるよう生活支援コーディネーターと協力して活動の支援を年数回していく。 地域資源マップについて、実行委員と協力して情報のブラッシュアップを行う。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（長尾川）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 天心会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	回		
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	回	(第2回部会 開催時点)	回 (第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回	回		

	(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1	認知症をテーマにした講座を開催し、地域での認知症の理解を深める	西奈地区では令和7年1月、西奈南地区では令和6年11月に認知症施策にて認知症サポーター養成講座～グループワークをそれぞれ行うことが決まっている。内容については詳細については検討中。	・認知症サポーター養成講座は、人員不足の影響はあるが地域のサポートも得られている様子であるため、協力して取り組んでもらいたい。	西奈・西奈南学区地区社協、S型デイサービス、老人会にて認知症サポーター養成講座や徘徊認知症高齢者への声掛け訓練、寸劇を交えた認知症講座を開催し、地域に認知症についての理解を深めることができた。声掛け訓練では、実際に認知症役、声掛け役を演じることによって、認知症の方への対応を学び皆で共有することができた。	老人会への講座や寸劇を交えた講座については新たな取り組みとして実施することができ、寸劇については他でも行ってほしいとの声は上がる等で盛況であった。地区社協で行う認知症徘徊高齢者への声掛け訓練では、地区社協主体という名目ではあったものの、実際には包括が主導で企画～運営を行っていた。次年度からは少しずつでも地区社協の役割を多くしていきたい。
2	医療・介護の連携にて顔の見えるネットワークを開催し、顔の見える関係性構築を図る	令和7年2月に開催を目途に動き出す予定。	・包括職員で主任ケアマネが不在であったため、重点項目等の事業の取り組みに不安を感じたが、地域の主任ケアマネと連携を図り、企画等にも協力が得られている。 ・人材が確保できる体制がないと職員が疲弊してしまう。地域の関係者と協力して事業に取り組んでおり、地域の人材発掘により影響もあるが、人材確保の課題も法人とともに解決していく必要がある。	令和7年2月18日に顔の見えるネットワークを開催予定。 地域の主任介護支援専門員と協働にて前期には権利擁護について、後期には2月29日にケアマネ支援研修を開催し、防災について地域を交えた形で開催を予定している。主任介護支援専門員が企画や準備、打合せ等を行ってくれることで、より主任介護支援専門員主導へ舵を切ることができている。	現時点では顔の見えるネットワークは開催されていない。地域の某医療機関で薬剤師や包括を交えた意見交換会に参加の依頼があった。このような機会を活かし、少しずつ多専門職を増やししながら包括主体でなくとも地域で多職種連携を行えるよう働きかけをしていきたい。
3	令和2年作成の地域資源マップの更新のために地域と連携し企画を行う	地区社協レベルで地域資源マップ更新の話はしている。認知症施策での打合せの際にマップの件を盛り込みながら企画を行っていく予定。		地区社協レベルで地域資源マップについて話したものの、具体的な企画まで至らなかった。	地域で実施されている活動が、地域住民へもケアマネジャーにも包括自身にも、まだまだ周知されていない箇所が多くある。皆に分かりやすい形で作成することにより、多くの方が地域のことを知ってもらい、地域活動への参加をしてもらえるよう来年度には進められるようにしたい。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（服織）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 5 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人駿河会		主任介護 支援専門員	0人	社会福祉士	5人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		4回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)	1回	(第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	3回		5回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)			
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1	①地域リハビリテーションの考えを広める。(自宅ですつとミーティング)	11/22開催に向け、実行委員会を立ち上げ計画中。デイサービスとリハビリ専門職による地域リハビリに関する発表を予定している。	・日常生活動作がリハビリに繋がるという考え方が理解できた。社会資源を活かして医療・介護と地域とを繋げていく事業であると思う。地域特性もあるため、推進していただきたい。	・主任介護支援専門員と協働し、11/22に南藁科地区で「地域リハビリテーション」のテーマで地域ケア会議を開催。民生委員、介護支援専門員、薬剤師、介護事業所、生活支援コーディネーター、地区社協、地域住民の参加があった。 ・昨年の地域ケア会議がきっかけで服織西地区社協から次年度の高齢者の集まりにリハビリ職派遣の希望があり、派遣の橋渡しをした。	・地域住民も含めて地域リハビリテーションについて話し合うことができた。地域住民にリハビリの考えが伝わり次年度の地域活動に組み入れることになった。 ・次年度は服織地区で「地域リハビリテーション」をテーマに地域ケア会議を開催予定。
2	②認知症支援に携わる関係機関の連携を図る場を設ける。	7/18 第1回グループホーム連絡会開催。圏域内3か所、藁科包括圏域1か所のグループホームが参加。 第2回を2月に開催予定。 グループホームから「ふれあいカフェはとり」の提案があり、認知症の相談対応に協力することになった。(9～3月まで月1回開催) 他のグループホームが協力参加予定。		・藁科包括と協働し、服織圏域3か所、藁科圏域1か所のグループホームに声を掛け、グループホーム連絡会を立ち上げた。(7/18情報交換、連携。2/13開催予定) ・圏域内のグループホームが県から受託した認知症カフェ(ふれあいカフェはとり)に参加依頼があり、9月から月1回参加。家族や関係者からの認知症も含めた相談に対応をしている。	・グループホームの横のつながりができたことで、グループホームのイベントに招待するなど交流が見られた。また、包括とグループホームの関係を深めることにつながった。 ・グループホームが主体となり、グループホーム連絡会を運営できるようにつなげた。
3	③障害分野と連携し、個別の相談支援に対応する。(障がい福祉相談会)	5/9 第1回障がい福祉相談会、9/12 第2回に参加。 障害に関する相談はあったが、高齢者に関する相談はなかった。 障害分野に関する総合相談に連携の機会として活かしていく予定。	・高齢者の参加はなかったが、今後はケアマネや施設職員等へも周知することとで、取り組んでいただきたい。	5/9、9/12、1/9に障がい福祉相談会に参加したが、相談は少なかった。次年度も開催されるため参加予定。障害分野から相談を受けたほか、包括から相談することもあり関わりがあった。	・障がい福祉相談会を地域やケアマネ、施設職員等への周知に取り組む。 ・障害分野と連携して個別の相談対応に対応する。

令和6年度		区地域包括支援センター運営部会							
事業所名	静岡市 葵区（城北）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：7人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】		1回	2回
①自立支援プラン型地域ケア個別会議		1回	2回
②ケース対応型地域ケア個別会議		2回	3回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議		回	1回

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 地域課題の把握を目的とした地域ケア会議の開催に向けて準備をする。 今年度は準備期間ととらえ、各地区の民児協や地区社協の協力を得ながら進めていく。	麻機地区社協が今年度実施する住民全体へのアンケートのプロジェクトチームとして参加。調査項目の精査、集計と分析に関わり、社協とともに地域課題を把握していく。	・アンケートの実施時期は夏から秋で台風の時期になる。防災に関する内容もあるため台風を意識した回答になると予想される。今後、冬を想定したアンケート調査を実施し、比較するとよい。 ・自治会や民生委員、社協と協力して実施しているが、集計が大変だと思う。QRコードからアンケートフォームを活用すると回収・集計も効率化が図れる。	12/4に地域ケア会議を実施し、麻機地区住民アンケートの結果を共有した。抽出された課題から、防災・子育て・その他の3グループに分かれ課題の確認をした。今年度中(2月中旬頃を目途)に、アンケート結果の住民への周知を行っていく。	防災、子育て、その他として医療機関が少ない・高齢者の移動手段が少ない・住民の交流できる場が少ないなどの課題が明らかになった。自治会・民児協・地区社協・包括で地域課題を共有できたことが良かった。コミュニティバスの運行や居場所づくり、災害時の安否確認方法の確認、世代間交流の開催など次年度以降の検討事項とした。
2 圏域内の他事業所・多職種との相互連携を深める。 千代田・長尾川・城北の3包括共催で介護保険と障害福祉サービスの併用についての研修会を企画している。 また、3包括合同で圏域内のグループホームネットワークの後方支援を行う。	・9/20 3包括共催の研修会を実施。静岡市障害者協会より講師を招き、障害福祉サービスの概要を学んだ。10/18に第2回目を予定している。 ・3包括圏域内のグループホームネットワークの後方支援として、サポーター養成講座の企画・実施に参加した。8/20に講座を実施した。	・障害と高齢、分野が代わると互いに状況がわからなくなる。今後も研修会の進捗について報告いただきたい。 ・グループホームの後方支援について、グループホーム職員が地域で認知症に関する普及啓発活動を実施することは、地域でグループホームが認識され、住民理解にも繋がる。ぜひ、推進していただきたい。	・9/20と10/18の2回、3包括共催の介護・障害連携研修を実施し、制度の違いや連携を学んだ。 ・8/20にグループホーム職員に向けたサポーター養成講座を実施した。その後の11月の会議では、養成講座を地域に向けて実施することの難しさ、グループホームの知名度を上げるためには何が必要かなどが話し合われた。	・介護と障害の連携について理解できた、できなかったの双方の意見が聞かれた。次年度の研修はまだ企画されていないが、引き続き学ぶ機会が必要と感じた。 ・グループホームが地域に向けて、認知症についてや業務内容について発信することが簡単でないことがわかった。次年度も地域の重要な社会資源としてのグループホームとの連携は必要である。
3 圏域内ケアマネジャーの介護と医療の連携の強化 主任ケアマネジャーを中心とした自主グループの支援を行う。	ケアマネジャー支援の今年度内の研修の打ち合わせを7/23に実施。圏域内12名のケアマネジャーの参加があり、研修のテーマ、主任CM更新研修の要件等について話し合った。 次回打合せは令和7年1月頃を予定している。		1/7に圏域内ケアマネジャー同士の交流や連携のため研修会を実施、KJ法を用いたグループワークで日頃の業務の「今更聞けないこと」を話し合った。21名のケアマネジャーの参加があった。	圏域内ケアマネジャー同士で、日常業務に関する悩みや疑問を共有することができた。この中から課題を抽出し、次年度からは課題に対する研修会を企画していく。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（千代田）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		4回
	②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会 開催時点)	2回 (第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		2回

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終) 良かった点、課題、次年度展望	
1	<p>①防災をテーマとし、研修や地域住民に対して啓発活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月S型デイ5カ所に出向き、防災をテーマに注意喚起している。地震や台風もあり自分事として捉えやすい様子。 机上訓練(地震)を介護保険サービス事業所、自治会、民生委員、地区社協等を対象に実施。計74名が参加した。ワークの進め方に最初は戸惑いもあったが、各組織の動き方や課題が抽出できた。今後も定期的に行い連携構築を図っていく必要がある。 12月に地域防災訓練に参加予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 机上訓練等で顔合わせは大事だが、発災時に包括として何ができて、何ができないかを整理して関係者に伝えていく必要がある。 場所によって高齢化率が低い地域もあるため、子育て世代も巻き込んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> S型デイに毎月参加し、防災について話しを行った。自分事として防災意識が高まっているように感じる。 12月に地域の防災訓練に参加。医療関係者も参加し、トリアージ方法など住民と一緒に学んだ。 7月に机上訓練を行い、2月21日に振り返りや各組織の防災対策の状況等のグループワークを行う。その際に、災害時包括の動きなども伝えていく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 机上訓練では、各組織が具体的な動きについて改めて考える機会が作れた。 積極的に活動できている組織もあれば、防災用品の不足や防災意識の問題などの課題もあった。地域課題抽出にも活かしていきたい。又、継続して訓練を行って欲しい意見もあり、次年度も内容を検討し実施していきたい。 地域住民に対して啓発活動を継続し、防災意識を高めていきたい。
2	<p>②障害の支援事業所や相談窓口と連携しやすい体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の包括(城北・長尾川)と合同で開催。2部構成として、1回目は9/20にケアマネを対象に障害制度についての研修を実施。計54名参加。 2回目は10/18に障害の計画相談事業所も参加してもらい事例検討を予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修はケアマネや障害の事業所を対象に行っているが、障害者支援課も対象にしてはどうか。ケアマネとの顔の見える関係づくりが構築されるとマネジメントもしやすくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回目の研修では、計画相談事業所も7名参加。計48名で事例を通してグループワークを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを通して、お互いの業務内容や役割等理解する事が出来、関係作りを図る事ができた。 課題として、障害、介護間の連携がスムーズに出来るよう連携シート等のツールが必要と感じる。 次年度開催希望の意見もあった。お互いの分野で制度の知識不足も見られた。実践に活かせる研修内容で次年度も行っていきたい。
3	<p>③気軽に相談できる場所として包括周知を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報紙を年4回作成し全戸配布している。開業医や薬局にも配布し相談にも繋がっている。 S型デイや地域行事に参加し包括周知を図っている。小学校や東部生涯学習センターのお祭り、地域のお祭りや敬老会等にも参加。小学校からも福祉教育の依頼も来ている。 民生委員不在地域に対し、アウトリーチを10月頃行う予定。行政に情報提供を依頼中。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関等にも広報紙を配布しているが、協力が得られないところもある様子。圏域を越えて配布することも検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙配布やLINE・Instagramを通して包括の活動周知や研修会広報など継続して行っている。 S型、小学校や生涯学習センターのお祭り、敬老会や小学校の福祉教育などに参加。 民生委員不在地域に対し、12月にアウトリーチを実施。包括周知や状況確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙から包括へ繋がる事もあり、全戸配布の効果を実感している。内容を最新の情報を取り入れたり工夫していきたい。 各機関への配布継続、地域の商店にも配布範囲を広げ、高齢者自ら困った際にSOS発信出来ない高齢者も多いため見守り体制の構築を図る。 アウトリーチにて包括周知を行い、地域住民に対し安心感を与える事が出来た。又、地域や小学校の行事活動にも参加し、福祉教育の依頼にも繋がった。子供たち世代にも、高齢者や認知症の理解促進を図り、高齢者支援が根付いていけるように次年度も活動を行っていきたい。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区美和地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 4人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会 開催時点)	2回	(第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		0回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)	
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終) 良かった点、課題、次年度展望
1	気軽に相談できる窓口としての機能を果たす 4カ所のS型デイ、1カ所の健康交流会に定期的に訪問しセンターの周知活動、フレイル予防の啓発を行った。 圏域内の医療機関、金融機関、薬局に福祉の相談会のチラシ、その他必要な情報提供資料の配架を依頼し管理もを行っている。7/3みのり大学で地域包括支援センターについて講演し、センターの役割や業務内容の説明を行った。	・町内会でも包括を知らない人もいたようだが、周知活動は十分に行われている印象を受ける。SNSを活用した周知も検討してはどうか。	左記の活動を継続して取り組んだ。 1/10に圏域内の公民館で活動をしている団体に向けて、地域包括支援センターと介護保険制度についての講演会を実施した。
2	医療介護連携のため既存のネットワークを活かし、地域の力を高める 1)地域ケア会議を開催し、地域課題を検討する。	・地域ケア会議の開催について、町内会で取り組めており問題ないのであれば無理に開催しなくてもいいのではないか。地域の共助ができていないところ、できていないところを確認してからアプローチすると効果的だと思う。地区把握等、地道に取り組む必要もあると思う。	区長会議に参加して以降は、地域関係者から現状の話を聞き、今回の地域ケア会議に至らなかった理由を確認することができた。幸庵新田の地区では、個が自立しており自助の考えや個(家族)の力が高いということが分かった。
3	医療介護連携のため既存のネットワークを活かし、地域の力を高める 2)安倍口団地福祉の相談会を運営、実施する。	・相談会を継続的に開催していることで、相談者が少しでも気が楽になったり、周囲の人に勧めてもらえる。ぜひ、続けていただきたい。 ・包括職員が各職種一人ずつということで、各職員の能力が試され、多くの事業を開催する中で負担が大きくないか心配。	10/1、12/3、2/4に開催。計5回開催した。障害委託相談機関2機関、当センター職員2名、暮らし・しごと相談支援センター、障害者協会が相談機関として参加している。今のところは、地域包括支援センターが主体となり相談会を企画、運営している。2ヶ月おきの開催のため、他業務との兼ね合いで予定を立てながら相談会を企画している。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（賤機）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：6人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)	1回	(第3回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		1回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)			
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1	相談者の気持ちに寄り添い、地域の高齢者の地域の高齢者に関する様々な相談に対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップの作成 圏域主マネ会議で最終確認10/24 ・デスマップの作成賤機圏域の通所事業所を一覧にまとめ圏域の居宅に配布。今後は他の地域に拡大していく ・「まるけあ賤機」の配布小中学校、医療機関その他、関係機関等 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップは必要性が高い。他の包括にも参考になると思う。デスマップも同様で、ケアマネ業務に活用できる。 ・広報誌の小中学校のメール配信については、子供たちに直接届かなくなるのは残念だが、親子で話すきっかけになる。学校にポスターを掲示する等、学校と調整しながら工夫していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップ、デスマップ作成し圏域居宅介護支援事業所に配布した。 ・「まるけあ賤機」は包括の紹介とフレイル予防についての内容で小中学校、医療機関その他、関係機関等年2回配布。医療機関などは張り出し用としてして片面A3判にして配布した。 	<p>社会資源マップ、デスマップについては地域を広げ、美和、安倍圏域の包括及び居宅介護支援事業所と連携を図り北部地域に拡大していく。</p> <p>「まるけあ賤機」はそのチラシをもって相談に来られる方、配布を楽しみにしてくれている住民もおり来年度も継続していく。</p>
2	高齢者が住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう関係機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・井宮地区地域ケア会議12/11予定 井宮地域の自治会長の会議に出席し生活支援コーディネーターとともにケア会議開催協力依頼 ・昭府町夏祭り参加8/3めだかすくいと「まるけあ賤機」配布 ・「車いす体験会」8/9「運動講座」7/25北部生涯学習センターと協同 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントである夏祭りでの広報誌の配布は、子育て世代、働き世代等、高齢者だけでなく幅広い年齢層の地域住民にアプローチでき、効果的に取り組んでいると思う。 ・車いす体験会では、実際に車いすを利用している人から話を聞くことができ、よい機会になったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井宮地域ケア会議を12/11開催した。初回ということもあり地域で活動している団体、地区社協、自治会、医療機関、郵便局、信用金庫、介護保険事業所などが参加し、それぞれの活動について発表情報交換を行った ・昭府町夏祭りへの参加や北部生涯学習センターとも連携して、講座を行ったが、年度後半は井宮北地区社協と協力し井宮北小4年生66名対象に認知症やフレイルについてクイズ形式で講座を行った。その後、小学生は包括とともにでん伝体操の会に参加し、高齢者と交流をした。 ・10/24に北部地域のケアマネを対象にBCP机上訓練を行った。 	<p>今までつながりが希薄であった井宮地区社協や自治会とつながりを作ることができた。参加者は今後でも継続していきたいとの意見が多く。来年度に繋げていく予定。また賤機南地区社協、井宮北地区社協に対しても生活支援コーディネーターと連携し地域の未来を考えるケア会議を開催していきたいと考える。</p> <p>昭府町夏祭りは町内からも毎年依頼があり、来年度も継続参加の予定。</p> <p>ケアマネ、包括とも担当者会議やモニタリング等の訪問時に、個々の利用者に対し避難場所や防災グッズについて確認し、日ごろより意識することを確認した。また、来年度もBCP研修を開催する。</p>
3	円滑な高齢者支援等に向け、医療と介護の連携の強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域高齢者支援連絡会勉強会開催7/18(美和包括・安倍包括合同)「在宅ケアにおける薬剤師の役割」について、対象：北部圏域ケアマネ ・賤機南地域ケア会議開催準備医療、介護の専門職と地区社協と地域の未来を考える ・「お薬と介護の相談会」薬局とコラボ 		<ul style="list-style-type: none"> ・7/18に北部圏域のケアマネを対象に、美和包括・安倍包括合同で北部地域高齢者支援連絡会勉強会開催した。 ・賤機南地域ケア会議については、来年度に持ち越し開催予定。 ・メディスン籠上店と「お薬と介護の相談会」を3/25に開催予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も美和包括・安倍包括合同で北部地域のケアマネとの勉強会を開催予定。医療との連携は高齢者支援において大変重要である。来年度は圏域の診療所の医師を講師として「緊急性の判断について～知っておくべきこと～」についての講演を依頼する予定。 薬局との相談会は今年度の状況を確認し、来年度に繋げていく。

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市 葵区（安倍）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：3人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人(育休)	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		2回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会 開催時点)	2回	(第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		0回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)			
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望	
1	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関・地域の関係者と連携を図り、高齢者の状況や変化に応じたケアマネジメントの体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区活動に参加し、高齢者と地区(集落)の状況を把握し関係者との連携を強化している。北部保健福祉センターと随時支援の情報共有を行い、訪問等が重複しない様に連携を図っている。 ・笹子、平野で圏域ケア会議を検討中 ・プラン型地域ケア会議：6/20実施済11/21予定 ・7/18北部地域高齢者支援連絡会勉強会実施済 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が少ない中で広い山間地を支援するのは大変。そういった中で、民生委員や自治会と協力して、住民の緊急連絡先の確認しており、地域特性に沿って工夫しながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区で開催された活動(S型デイ、交流会等)に毎回参加する事で、高齢者と各地区(集落)の状況把握ができた。 ・梅ヶ島、大河内、玉川の集落支援員と随時、地区の状況やケースの情報共有をした。見守り、支援が必要な方の対応がスムーズに行えた。 ・圏域ケア会議を計画したが、関係者の都合や体調不良等で会議開催が延期となっている。 ・自立支援プラン型地域ケア個別会議は地区を選定して実施した。 R6.6/20 有東木地区で開催済。 R6.11/21 油山地区で開催済。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の関係者が会に参加している為、毎回参加する事で顔の見える関係が強化され相談が増えた。また、参加者が知人に紹介する等、横の繋がりが強化された。 ・集落支援員との連携が強化された。 ・各地区の関係者から、圏域ケア会議開催の要望があり計画をしたが実施できなかった為、次年度の課題として検討していく。 ・自立支援プラン型地域ケア個別会議は次年度も地区を選定して実施していく。(地区を知ってもらう事で適切なアドバイスをもらえる。) ・山間地の包括と情報交換をしていく予定。
2	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の理解を深め、認知症高齢者への支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座、認知症に関する講座等を開催。 ・7/25 玉川地区で開催済(玉川生涯学習交流館) ・11/7牛妻：笹子地区で開催予定。 ・大河内、賤機北地区より希望あり検討中。 ・いずれも北部保健福祉センターの地区担当保健師と協働。養成講座の後鬱の講義を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期アルツハイマー病治療薬が処方されるようになり、認知症初期の人を医療に繋げる重要性について、認知症サポーター養成講座等で周知してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を開催。(北部保健福祉センターと協働) ・R6.7/25 玉川地区：玉川生涯学習交流館で開催。 ・R6.11/7 賤機中地区：笹子公民館で開催。 ・養成講座終了後、鬱の講義を実施：北部保健福祉センター地区担当保健師が講義を行った。(鬱と認知症の違いを知りたいとの希望が多く聞かれた為) 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になっても、住み慣れた山間地で生活できる様に見守り体制を整えていく。その為には高齢者だけでなく、住民に認知症を理解してもらう様、次年度も認知症サポーター養成講座開催していく。 ・玉川、大河内地区、賤機北、松野地区から要望がある為、次年度の課題として検討していく。(油山地区でR7.6/13にサポーター養成講座を調整済。)
3	<ul style="list-style-type: none"> 包括支援センターの周知活動を継続し、介護予防、虐待、消費者被害の啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S型デイ、交流会等に短時間でも毎回参加し、周知・啓発活動を継続している。 ・介護予防教室を開催する。 ・8/9菜流寺で包括、介護予防の講座 ・8/10秘在寺で包括、介護予防の講座 ・9/10 有東木：音楽療法 ・9/24 渡：体操 ・9/27 俵沢：音楽療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお寺で講座開催について、地域にもともとあるコミュニティを活用するのはよい手段。他にもあると思うので、どんどん活用していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S型デイ、交流会等に短時間でも毎回参加し包括の周知度を確認。介護予防、消費者被害等のチラシを配布し啓発をした。 ・お寺の住職より依頼あり。お施餓鬼供養後、包括の説明と介護予防教室を開催した。(8/9菜流寺・8/10秘在寺) ・地区関係者から希望があり、予防教室を開催した。音楽療法(9/10有東木・9/27俵沢・12/13野田平・R7.1/28渡)体操(9/24渡・1/24油島) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区活動参加時に包括の周知、介護予防、消費者被害等の啓発活動を次年度も継続していく。・菜流寺・秘在寺の住職より、R7.8/9.8/10、お施餓鬼供養後に包括の説明と介護予防の依頼を受けている。(音楽療法と体操で調整。) ・地区の関係者より令和7年度に介護予防教室開催の依頼があり調整。(音楽療法：4/3笹子・4/25油山・6/10松野)(体操：9/12油山・10/14松野)

令和6年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（薬科）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 3人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人駿河会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会 開催時点)	0回	(第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	3回		3回	

(第2回運営部会)		(第3回運営部会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1	<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護の専門職との連携強化を図る 圏域内の医療機関の医師や看護師と介護支援専門員との意見交換を10月までに5回行った。 自宅でずっとミーティングについて認知症について行う予定、細かい内容や日程や参加者については検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> 山間地という地域特性上、整形外科に理解・参加してもらうことは意義が大きいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の医療機関の医師や看護師と介護支援専門員との意見交換を2月までに10回行った。今年度で14回開催予定。 3/6自宅でずっとミーティング開催予定「認知症高齢者が在宅で最後まで暮らせる地域づくり」をテーマに地域住民(連合町内会)、民生委員、医療職、介護職で会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に医療機関と意見交換を行うことで、介護支援専門員と医療機関で日頃から相談しやすい関係ができた。 自宅でずっとミーティング開催にあたり連合町内会と協力できたことで、関係を深めた。今後も連合町内会と協力し地域に向けた活動を行っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 元気なうちから介護予防の必要性を伝える 7ヶ所のS型デイサービスに参加、元気なうちから介護予防を行う必要性を伝えた。 中薬科地区の民生委員に対して、元気なうちから介護予防の必要性について伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気に過ごせている高齢者に対し、「要介護状態にならないように」ではなく、「元気を継続するために」と前向きになるような声掛けが大切だと思う。介護予防に取り組む利点等をうまく伝えられるとよい。 健康寿命を延ばすことは大切なこと。引きこもりやS型デイサービス等に行けない高齢者にどのようにアプローチするか、地域の支援者と話し合っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 10ヶ所のS型デイサービス等に参加、元気なうちから介護予防を行う必要性を伝えた。 中薬科地区の民生委員、地域のボランティアに対して、資料を基に元気なうちから介護予防の必要性について伝えた。 認知症予防についての広報紙を全戸配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> S型デイサービス等、集まりに行けない方に対する対応が課題。次年度は全戸配布の広報紙を年2回作成し、配布する。 今後も高齢者の集まる場所の訪問や広報紙を作成し、元気なうちから介護予防の必要性を伝える。
3				